

**Fairholt, Frederick William. Costume in England a history of dress to the end of the eighteenth century, 2 vols. by the late F. W. Fairholt and rev. by H. A. Dillon. London, George Bell, (1846) 1896, 1909. 18.5×13.3 cm <383.133-F-1~2>**  
 Hiler p. 301 Colas 1023-25 Lipp. 1008z, 1009

本書は第1巻の歴史、第2巻の用語辞典の2部より成り、古代文物研究双書で有名なボウン出版の芸術双書の1冊として、1846年にロンドンのチャップマン社より刊行された。西洋服装史研究にとって模索の時代に、科学的実証主義の立場から体系化された本書は、初版以来、1909年までに4版を重ねている。第2版は、1860年に56の新しい挿図を加えて初版と同じ出版社から刊行された。その後、1885年にイギリス好古学会特別会員であったデイロンによって脚注に多くの実例を挿入し、本文の中にも編入して改訂増補3版が刊行された。挿図もフェアホルトが編集した Dictionary of terms of art (1854年)からの図版とオリジナルの写本から編者が選んだものが加えられた。第2巻の用語辞典は、約200項目の新しい見出し語と約50の挿図が加えられ増補された。本館では、1968年にデトロイトのシンキング・トゥーリー社から出版された改訂3版の翻刻版と、1896年 (Vol. 2: Glossary), 1909年 (Vol. 1: History) にロンドンのG. ベル社で出版された第4版を所蔵している。

内容は、古代ブリトン人の時代 (B. C. 500年ごろの鉄器時代) から、ブリテン島における古代ローマ人、アングロ・サクソン人、デーン人、ノルマン人の侵入、プランタジネット王家の時代、ヨーク、ランカスター王家の時代、チューダー王朝、スチュアート王朝、ウィリアム3世からジョージ2世の時代、ジョージ3世から1800年までの各時代に分けられ、各章は、王様や貴族が着ていた服装から始まり、中流階級の衣装、庶民の服装、聖職者の服装の描写、そして軍人階級の武具甲冑の記述で終わっている。具体的な細部の事項は、更に第2巻の用語辞典で補っている。巻末には、ボウン社双書のアルファベット順一覧が付されている。

以上の内容で編成された本書は、通巻700図に及ぶ膨大な図版を含む実証的な記述と科学的態度によって、読者をイギリス服装史の各時代へ導くための案内役としての著者の意図は、十分に果たされているといつてよい。

フェアホルト (1814—1866) は、21歳の時に木版画家のスライ (S. Sly) の助手になり、チャールズ・ナイト社専属の木版挿絵画家となった。彼の最初の重要な作品は、ジャクソン・チャット社から出版された Treatise on wood engraving (1839年) であった。その後多くの作品を手掛け、挿絵によって名声を博した。彼はイギリス好古学会会員、ロンドンの古銭学会会員でもあり、芸術家、服装学者として活躍した。数多い作品の中で最も良く知られているのが本書である。(内野)